西安市におけるコロナ禍に対応した屋台の再配置と管理計画に関する研究

趙　南

1. はじめに

1-1. 研究背景と目的

中国の屋台の営業は、出稼ぎ労働者や地元の低所得者が都市で生存・発展するために行う低コストで経営自由な露店経営活動の一つである（図 1）。すなわち都市の弱者層が生計を立てるために、都市の公共空間を利用して、自分の労働で社会にサービスを提供し、又は商品を販売することで利益を獲得するものである。

図1. 西安市の屋台

屋台事業者たちは夜に自発的に集まって営業するため、主に「夜市」の形で街に見られる。街の活性化、都市の夜の商業サービス活動の補充、都市の雇用問題などの面で大きな役割を果たしている。一方、無秩序な屋台は都市の景観、街の衛生と交通安全に深刻な影響を与えており。「文明都市」[注1)] の選考にも悪い影響を与えた。屋台の営業は周縁化されていた経済システムの一部となっている。

新型コロナウイルスの流行により、失業率が上昇し、経済は低迷している。2020 年 6 月に中央政府は「屋台経済」政策を公布し、政府は屋台経済を民生の改善・民衆の収入増・経済発展の促進と同程度に重要視し、屋台に対し一連の具体的な管理規則を制定し、そのため、これらの変化を記録・フィードバックすることは今後の都市管理の参考になる。

本稿では新たな政策内容を整理した上で、夜市の営業に直接的に影響を与える要素を見つける。政府の統制下で、西安市におけるコロナ禍に対応した屋台の再配置と管理計画の事態と意味を明らかにすることを目的とする。

1-2. 研究の方法

西安市政府のホームページから夜市に関する情報を収集し、2021年11月までに登録のあった夜市の配置場所の地図上へのプロット、目視、写真撮影、実測による夜市の実地調査を行う。新たな政策の特徴を把握して既存夜市の営業実態と都市空間利用を考察する。

1-3. 研究の対象

2019年12月から2021年11月までに西安市政府によって営業が許可されている30ヶ所の登録夜市を主な調査対象とする。表1と図2に調査概要を示す。

2. 屋台の政策背景

2-1. コロナ前

かつての屋台営業は申請手続きがなく、自営業の非正規雇用[注2)] の一形態であった。屋台は可動性があり、街中に至る場所に分散しているため、管理が比較的難しかった。そこで政府は特別に屋台営業が可能なエリ

表1. 西安市登録した夜市概要

区域	番号	名前	営業時間	登録時間	長さ	屋台数	となり	歩道	営業場所
碑林区	1	新旅程	夜市	2020.03.23	15	4	病院、住宅	3	歩道
	2	西安建築科技大学 南ゲート	夜市	2020.03.23	150	20	大学、住宅	8.5	歩道
	3	解放市場	全日市	2020.03.23	80	20	商業	5	歩道
	4	大学南路	夜市	2020.11.17	60	16	大学、住宅	6	歩道
	5	東木頭市西段	夜市	2021.10.26	100	20	商業	5	歩道
	6	草場坡 永寧路	夜市	2021.10.26	130	25	病院、住宅	6	歩道
	7	朱雀東坊西段	夜市	2021.10.26	100	18	住宅	6	歩道
	8	中貿広場	全日市	2021.10.26	80	17	商業、病院	6	歩道
	9	新安街	夜市	2021.10.26	80	15	病院、住宅	3.5	歩道
	10	建設東路東段	夜市	2021.10.26	100	15	大学、住宅	6	歩道
	11	蔡家巷	夜市	2021.10.26	70	20	住宅	5	歩道
	12	仁厚荘南路中段	夜市	2021.10.26	60	10	住宅	6	歩道
	13	金水路	夜市	2021.10.26	220	15	大学、住宅	6	歩道
蓮湖区	14	雅逸花園	全日市	2020.03.23	50	13	住宅	／	市場
	15	太奥広場	夜市	2020.03.23	100	8	商業	／	広場
	16	大興西路	全日市	2020.11.17	75	12	商業、住宅	／	市場
	17	緯二十六街	全日市	2020.11.17	30	82	病院、住宅	／	市場
	18	豊禾路東端	全日市	2021.10.26	30	20	住宅	／	市場
	19	西駅街東端	全日市	2021.10.26	100	10	住宅	6	歩道
	20	西儀坊103街坊	夜市	2020.10.26	40	10	住宅	9	歩道
新城区	21	永楽路中段	夜市	2020.03.23	50	10	住宅	6	歩道
	22	韓森路	夜市	2020.03.23	100	14	大学、住宅	9	歩道
	23	卜蜂蓮花マーケット	全日市	2020.03.23	60	25	商業、病院	／	広場
	24	十四街坊中段	夜市	2020.03.23	120	24	住宅	5	歩道
	25	華清学府城	夜市	2020.03.23	60	20	大学、住宅	6	歩道
雁塔区	26	長豊元小区	夜市	2020.03.23	50	8	住宅	6	歩道
	27	科技路と丈八北路の交差点	夜市	2020.03.23	50	10	住宅	9	歩道
	28	莱安逸珲 西ゲート	夜市	2020.03.23	50	10	住宅	6	歩道
	29	明徳東路	夜市	2020.07.01	200	80	大学、住宅	6	歩道
	30	裕昌太陽城商店街	夜市	2020.07.01	100	15	住宅	／	広場

・長さと歩道幅員の単位はメートルである

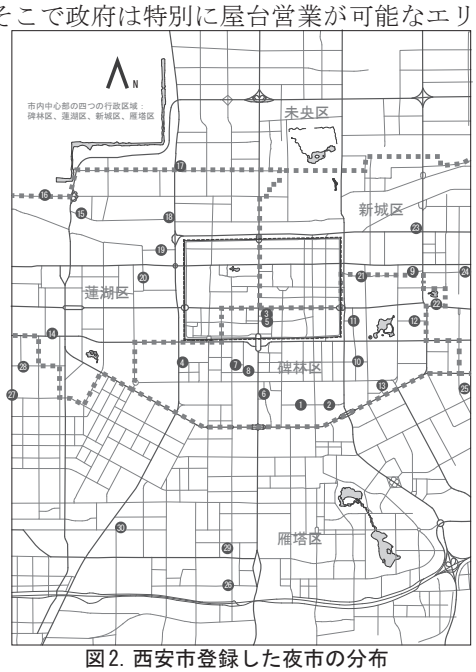


図2. 西安市登録した夜市の分布

アをつくり、指定エリアで経営していない事業者を退去させるもしくは罰金を与えていた。屋台事業者のニーズの実態に沿っていなかったことや、屋台の営業空間の特徴により、指定エリアは空室率が高い。屋台管理の問題は解決されるどころか、かえって経営者と城管[注3)]の間の対立を深めてしまい、社会の問題となった。屋台の事業者は城管の注意を引くことを恐れ、夜に4、5つの屋台をグループとし、小規模で都市の辺鄙な街に分散して営業していることが多い。大規模になる夜市は区政府の出張所に接収管理され、月ごとに管理費用を払うことで営業場所の固定を保証されていたが、経営時間は出張所の関連規定に従わなければならない。

本稿では、10軒以上の屋台の場所を大規模夜市として扱い、10軒以下の場所を小規模夜市として扱う。

2-2. コロナ流行により

西安市政府は屋台経済に関する政策を実行する際、トップダウンの管理体制を構築することによって、以前の受動的な管理者から積極的に屋台の配置・管理計画に参加するマクロコントロール者に転換したかった。そのゆえで、「七定」、「七統一」、「三掛け」、「二達成」で構成された詳細な政策を制定した（表2）。現在の屋台事業者は出張所によって募集・選別されている。営業場所も出張所の調査によって選定されてた後、計画を立て、区政府に報告して審査を受け、最終結果は市政府によって公示される（図3）。

詳細な許認可審査の流れは夜市の経営秩序を保証することができるが、公式屋台の営業場所は限られていたので、すべての事業者の需要を満たすことはできない。そのため、現在では小規模な非公式の夜市も存在しているが、管理方式は従来の懲罰から勧告指導に変わった。主に街を巡回する警備員と協力し、交通に影響を与えないことを前提として、夜8時以降に営業活動を行うことが許可されている。勧告に従わない場合は、城管が法を執行し、また、衝突を避けるために警備員はその現場で法の執行過程を監督しなければならない（図4）。

3. 屋台の再配置

屋台の再配置は、営業の空間的利用と発展を尊重し、もとからある大規模な夜市を優先的に残し、訪問調査により新たな屋台営業の場所を確保している。本稿は2020年[注4)]（図5）と2021年（図6左）を比較して、政府の統制下で営業場所の変化を分析する。2020年では大規模夜市16ヶ所があり、再配置を経て13ヶ所を残し、残り5ヶ所は近所に移転させた。2021年で

表2. 西安市夜市政策概要

	コロナ前		ポストコロナ時代	
管理規定	「陝西省食品小作坊と攤販管理条例」2015 「西安市食品攤販臨時攤群点管理暫定規定」2016		「一時的な道路占有の屋台グループ（夜市）の管理を強化するための通知」2020	
内容	禁止区域、厳格管理区域と経営できる区域三つのタイプに分けられた 経営できる区域： 1、政府機関を避ける 2、中学校、小学校から100m 3、経営場所から200m以内に20軒以下の飲食店 4、幹線道路から50m以上 5、ゴミ捨て場などの汚染源から安全な距離を保つ		七定	経営の種類、経営の屋台、経営時間、経営価格、経営の食材、監督と公示、ゴミの分類
			七統一	屋台の形態、経営標識、床の敷設、食器、工作服、照明、衛生
			三掛け	夜市経営者登録カード、経営者の健康証、食品安全責任承諾書
			二達成	衛生基準、秩序の基準
経営場所	屋台事業者が自発的に営業できるエリアに集まって営業している		政府が屋台の営業場所を統一的に計画する	
経営時間	夏と秋	19:30-24:00	夏と秋	18:30-24:00
	冬と春	19:30-23:00	冬と春	18:30-23:00

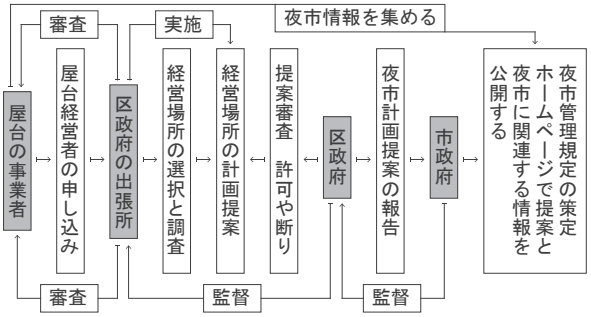


図3. 政府統制下で夜市の運営モード

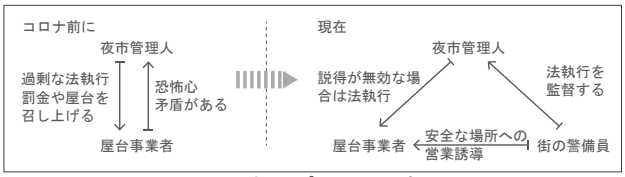


図4. 法執行プロセスの変化

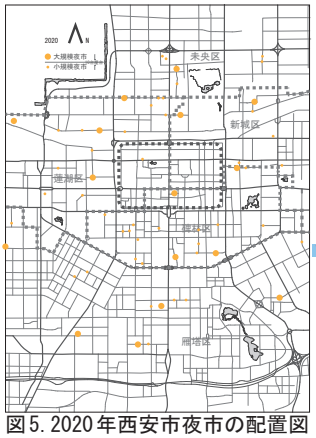


図5. 2020年西安市夜市の配置図

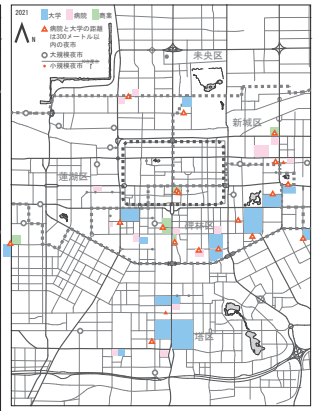
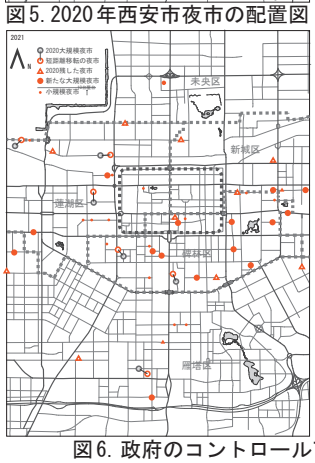


図7. 夜市営業環境の変化



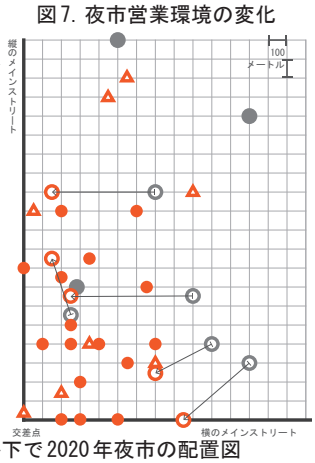


図6. 政府のコントロール下で2020年夜市の配置図

は新たに 14 ヶ所の大規模夜市を増やし、うち半分は 2020 年にあった相互距離の近い小規模夜市を寄せ集めて作ったものである。こうして小規模夜市を一ヶ所に集約することで、元の屋台事業者の利益を損なわずに、政府による屋台への取り締まりを強化していた。

営業場所に最も近い幹線道路の交差点を座標の原点として、夜市の座標を示すと、コロナ後の屋台の配置は、幹線道路や交差点付近などの人通りが多い場所に集約化されている(図6右)。顧客層は地元住民中心から、大学生・残業帰りの会社員・夜勤明けの医者・観光客などへと多様化していく。

4. 屋台形式の統一

4-1. かつて屋台の問題

屋台形式の統一に関する規範は、都市の外観の清潔さの維持、屋台の機能不足の補完を出発点として制定されたものである。

従来の屋台はほとんどが事業者によって注文されていたので、屋台の大きさは異なっていた。運転機能を持たない一般屋台と、三輪車によって改造された移動屋台の二つのタイプに大まかに区別することができる。通常タイプは車輪を備えていて移動可能であるが、移動性が低いため、営業場所と事業者の自宅に近く、

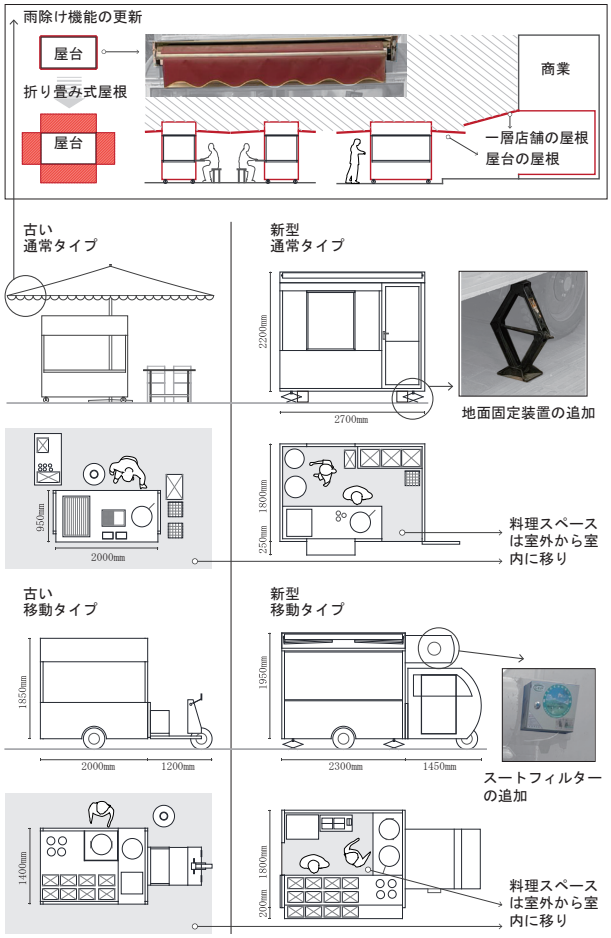


図8. 屋台の更新

団地の入り口、城中村（都市の中の農村）に現れることが多い。

通常タイプは料理台の面積が限られて、食材、ガスタンク、水槽などを屋台の周りに置いているので、衛生的によくない印象を与える。移動屋台の移動範囲は広いため、事業者の方々は自発的に人の通行量の高い街に集まってることが多い。しかし、三輪車が無秩序な配置することは交通上危険をもたらす可能性がある。どの屋台タイプにも様々な問題があった(図8)。

4-2. 屋台の更新

屋台更新の最初の大きな変化は、料理の作る場所を屋外から室内に移転することである。街の面から見ると、屋台の形式が統一されたため、街はより清潔になる。室内の作業室はより良い照明を提供できるだけではなく、風や雨の影響を小さくすることができる。また屋根に油煙フィルタを追加させ、大気汚染を防止することができる。他に地面の固定装置によって屋台の偶発的な移動で引き起こされる事故を予防することができる。天井に追加された伸縮可能な雨よけは、従来の一時的に立てった大きな傘より、操作が簡単で強固であるため、顧客は雨の日で屋台でも食事をすることができる。一部の商業エリアでは、屋台の折りたたみ式雨よけは周りの店の雨よけ、又は他の屋台の雨よけと組み合わせることで、屋根のあるグルメ街を形成していた。

5. 屋台と市場の融合

5-1. 市場型夜市の概要

屋台形式の統一に関する政策は絶対的ではなく、市場型夜市はこの政策に従う必要がない。

市場型夜市では街に分散していた屋台をコロナ禍による店舗の廃業によってできた市場の空間に再配置した。市場における元の店の事業者に影響を与えず、昼間に通常通り営業することができる。屋台の事業者は夜に自分の経営エリアで経営活動を行い、市場は 24 時間に水と電気を提供しているので、屋台の事業者は全日経営が可能がある。しかし、昼間には顧客が少なく、事業者の多くは夜のみで経営している。

5-2. 市場型夜市の分類

屋台と市場が融合したスタイルを「既存市場」、「増築市場」、「新築市場」という 3 つに分類した（図9)。既存市場は従来の市場内部で倒産した店が多いため、政府は店の位置を再計画し、夜市の経営のために専用エリアを分けるものである。増築市場は従来の市場内部に一部の店が倒産し、それに市場の隣に空地がある場合、政府は事業者を増加するために、市場を拡

張して、そこに屋台を設置するものである。この2つのタイプは屋台を更新する必要がない。新築市場は、空地に新たな市場を建設することで、夜市を配置するものである。新規市場であるため、事業者の多くは屋台経営の経験のない素人である。従って、ここの屋台や用具は全て政府によって統一的に仕入れらんた。

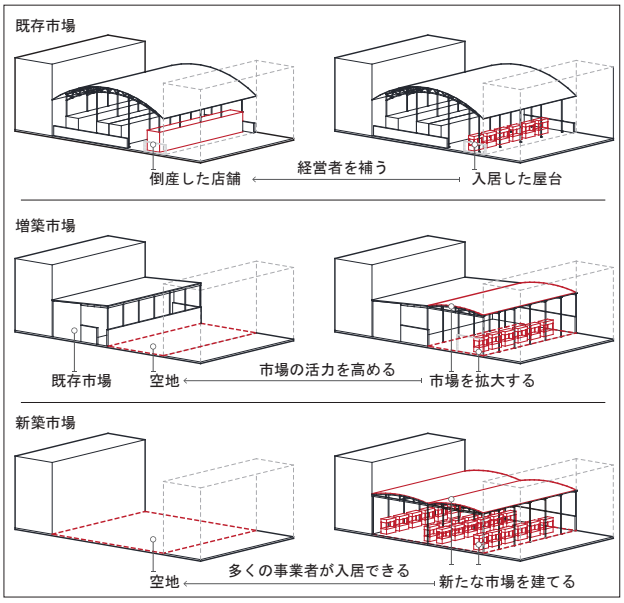


図9. 市場型夜市

5-3. 事例の分析

「雅逸花園」夜市は増築市場型の夜市にあたる。元々は店舗16軒、事業者募集室1ヶ所、トイレ1ヶ所からなっていた。コロナ以降、4店舗が閉店となり、新しい事業者を誘致した。市場が増築されてから、新たに屋台11軒・果物屋1軒・マーラータン屋1軒を入居させることで、市場を活性化させた。コロナ感染拡大の予防策として、市場の入り口に検温やQRコード[注5]スキャンの場所を配置しいていた（図10）。

市場の店舗は元々南北に並んでいて、テーブルと椅子が店のそれぞれの入り口に置かれて、所属性を帯びていた。市場の片方が増築された後、拡張スペースもすべて屋台の活動範囲に含まれている。内部は、営業のための営業エリア、食材の準備や閉店後に屋台を泊めるための整備エリア、そして専属の屋台ダイニングエリアに分けられる。しかし、ダイニングエリアはアクセスが悪く不便のため、店舗の経営者は自前のダイニングエリアを顧客に共有していることが多い。市場内に配置された屋台は都市の景観破壊という問題がないため、その形式は様々で、仮設テントを設置しマーラータン屋を経営する店舗もある。昼間と夜の営業シーンを比較すると（図11）、屋台の導入は市場の営業環境を大きく改善し、住民の日常生活にも利便性を与えたことがわかった。市場は都市にさまよう屋台の

図11. 営業シーン

図10.「雅逸花園」の平面配置図

収容所として、無秩序な屋台営業による市街地の景観、交通安全への影響をある程度軽減していた。

6. まとめ

本稿では、以下のことを明らかにした。

都市公共空間の活用方法として、より統制を取れた。またコロナ禍においても感染リスクの少ない飲食環境を作ることに成功した。一方で、街のあちこちに分散していた屋台が集約化したことで、利便性が悪くなった地域もある。

注釈

注1)「文明都市」とは、中国で3年に1度選定される都市栄誉称号である。都市にとっては、より多くの商業投資と中央政府の資金援助を誘致して都市を発展させることができることを意味し、為政者にとっては非凡な実績となった。しかし、「都市の外観」は審査項目の一つとして、「屋台」が最も大きな脅威がになったため、具体的な管理基準に制約されない場合、管理者はよく経営者に対して法を執行しすぎ、様々な理由で経営を制限することが多い。「屋台経済」政策を提唱に伴い、「都市の外観」を「文明都市」の審査項目として廃止された。

注2)「非正規雇用」とは労働市場において正規なルートを介さない就職手段である。その中に、労使双方は普通就業契約書を締結しない。主に自営業・パートタイマー・臨時職員などがある。

注3)「城管」とは、中国の都市管理の中で法執行を担当する政府部門で、都市管理局の略称である。

注4)「2020年西安市夜市の配置データ」とは、図4データの出所は林建東さんの「生活を持つ街に夜市の分布特徴と計画管理に関する研究」である。

注5)「QRコード」とは、個人のアイデンティティ情報、ワクチンの接種、PCR検査の結果、行動歴などの情報が記載されている健康コードである。中国で公共交通機関や公共の場所に出入りする際にQRコードをスキャンして行程軌跡を記録する必要がある。

参考文献

1) 中村航，梅原令，和久正義，宮嶋春風，古谷誠章，台湾屋台街“攤販集中場”の都市への順応，日本建築学会大会学術講演梗概集（東北），365-368，2018年9月
2) 篠原諒，趙世晨，箕浦永子，鶴崎直樹，福岡市屋台における公有地占用場所の利用実態に関する研究，日本建築学会大会学術講演梗概集（中国），365-368，2017年8月
3) 林建東，都市街空間に夜市の分布特徴に関する研究，都市建築，2021年4月
4) 林建東，生活を持つ街に夜市の分布特徴と計画管理に関する研究，西安建築科技大学修士論文集，2021年6月